

新潟医療センターニュース

第5号

発行 JA新潟厚生連
新潟医療センター
発行責任者 田中憲一

消化器病センター開設に向けて



大変お騒がせしております!

は、南口玄関側に増築した新棟に医事課・薬剤部を移設します。その後、医事課と薬剤部移設後のスペースに、消化器病センターを開設します。

従来、当院消化器内科ならびに消化器外科では高橋澄雄部長および大橋泰博部長を中心として消化管、肝胆膵領域の各種疾患に対して積極的な診療を行ってまいりました。この度、消化器領域のさらなる充実を目指して消化器病センターを設置することになりました。センター長には青柳豊新潟大学名誉教授（新潟大学消化器内科、前教授）を招聘し、合わせて五十嵐正人医師、田村康医師が新たに赴任し、消化器内科六名、消化器外科三名、計九名体制となり強化をはかっております。また、施設面におきましても消化器病センター内に内視鏡室を三部屋に拡充し高

五月より、消化器病センター及び新棟増改築工事が始まりました。病院をご利用されます皆様には、騒音、振動や通行制限等、ご迷惑、ご不便をおかけしております。当院は建物が非常に狭隘化しており、特に外来診療に來られる皆様には大変ご不便をおかけしております。今回の増改築工事

医療講話

高齢化社会で増え続ける肺の病気

副院長 吉澤 弘久

この四月より、吉澤弘久先生が副院長として着任されました。経歴をご紹介しますとともに、医療講話として、ご専門の呼吸器のお話を伺いました。

肺がんの増加とたばこの危険性

日本は、平均寿命、高齢者数、高齢化のスピードの三点において世界一の高齢化社会と言われています。肺に関連する病気の多くは高齢化が進むにつれて急増しています。現在日本の三大死因はがん、心疾患そして肺炎です。がんの中

でも肺がんはもつとも数が多く、年間約七万人の方がなくなっています。年齢別で見ると六十歳以上の高齢の方に肺がんが多く発生しています。この様な背景から、肺がんは今後の高齢化社会でさらに増加していくことが予測されています。肺炎も三大死因の一つですが、

原因の多くは細菌が肺の中で増えて、炎症を起こすことにあります。高齢の方、特に脳卒中などに罹患されている場合、食べ物や飲み物を誤って肺の中に吸い込んで起きる誤嚥性肺炎にかかる方が増えています。また最近COPDと言いう言葉をきくようになりましたが、これは慢性閉塞性肺疾患のことです、このなかには肺気腫と慢性気管支炎があります。これらの病気も高齢の方、特にたばこを長年吸っている方に急増しています。さて高齢の方で増え続けているこれらの肺の病気ですが、予防するためにはたばこを吸わないことが重要です。現在たばこを吸われ

度な内視鏡治療に対応出来る機種を導入いたします。さらに、いままで分散していた内科、外科の診察室についても増室し、腹部超音波検査室なども含め集約化を図っております。今後さらなる診療体制の充実を図り、地域の皆様にご満足いただける病院となるよう努めてまいりますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

事務長 栗林 俊悟

臨時出入口をご利用ください

工事に伴い南玄関を閉鎖致しました。こぼり園側救急外来脇に、臨時出入口を午前七時から午後九時までご利用になれます。ご不便をお掛けしておりますがご理解とご協力をお願いいたします。



(裏面もご覧ください)



ていても、やめることによりこれらの病気にかかる危険性を下げることが出来ます。また共通の症状として咳、痰、発熱、息苦しさがあります。これらの症状が長引くときには年齢にかかわらず是非、呼吸器専門医を受診していただければと思います。

経歴・感想
私は呼吸器専門医、がん薬物療法専門医として長年、新潟大学歯学総合病院で呼吸器疾患、とくに肺がんを中心に診療してきました。新潟医療センターに四月に赴任して以来、すでに多くの呼吸器疾患の患者さんの診療を担当させて頂いております。今回述べさせて頂いた様に、長引く咳、痰、発熱、息苦しさなどの症状があるときには、是非、呼吸器専門外来を受診して頂ければと思います。

羽ばたけ新社会人



清々しい春風と共に、沢山の新しい職員が当院に着任致しました。その中には、初めて社会に出る一年生も含まれています。おそらく見るもの聞くものすべてが新鮮に感じることでしょう。約三か月が経過して、そろそろ「慣れた？」と聞いてみたくになりました。

放射線科に配属された各務孝貴さんの奮闘ぶりをのぞいてみましょう。

先輩からのエール

放射線科で行う検査と言っても様々です。胸やお腹の写真はすぐに撮れても、二〇〇個もの骨をそれぞれ正確に画像としてとらえるのは努力が必要だったはず。CT検査や核磁気共鳴を利用したMRI検査、血管造影等といった特殊放射線機器を用いる検査の修得となれば、緊張感に押しつぶされそうになったことでしょう。

患者さんとの関わり方についても、厳しい指導がありましたね。新社会人として甘えられるのもあと少しです。

各務君の元気で弾むような明るさがあれば大丈夫です。今月から始まる夜間勤務は不安だらけでしょうが、尚一層精進して頑張ってください！

自覚・責任を持った行動を第一に

四月から新潟医療センター、放射線科でお世話になっております各務と申します。よろしくお願

いします。僕は長野出身なのですが、大学からここ新潟に来ました。最初は海があるなあ、平地だなあというくらい印象でしたが生活していく中で新潟の方の人柄の良さ、そして食事の美味しさに感動し、大学卒業後も新潟でお世話になることを決めました。

実際に働き始めて、先輩方には様々なことを教えていただきありがとうございます。放射線機器の扱いはもちろんですが、特に患者さんへの対応の仕方は、自分もこんな風になりたいと強く思いました。厳しくも愛のある指導をいただきながら、一日も早く先輩方のようになれるよう努力していきます。

また放射線技師として、そして新社会人として自覚と責任を持った行動をとっていきたくと考えております。医療の現場に携わる者として、患者さんのことを第一に考え、一人前の技師を目指します。まだまだ慣れないことも多く、皆様に迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、何卒よろしくお願いたします。

診療放射線技師 各務 孝貴

病院探索

セカンドオピニオンのご案内

セカンドオピニオンとは、今にかけている医師（主治医）以外の医師に求める第二の意見です。医師や医療機関により、患者さんに提供しようとする治療方法が同じとは限りません。また、患者さんご自身が希望する治療方法もそれぞれ異なります。

そこで、患者さんにとって最善と思われる治療方法を患者さんと主治医との間で判断するために別の医師の意見を聴くことがセカンドオピニオンです。



総合案内のカウンターはいつも素敵がいっぱい！！

当院においてもセカンドオピニオンを実施しております。窓口は一階地域連携室となっております。また、当院に受診している患者さんで他の医療機関でのセカンドオピニオンをご希望の患者さんは、ご遠慮なく主治医にその旨お申し出ください。主治医がご希望の医療機関宛に診療情報提供書を作成し、必要に応じて各種検査・画像診断などの資料を準備しお渡しいたします。



編集後記

当院では様々な増築工事を重ねながら地域の方々のニーズに応じております。昨年開設された産科病棟では、ベビーマッサージの教室もスタート致しました。次回は地域に関わる産婦人科を中心にご紹介したいと思います。

(記事/大橋)

